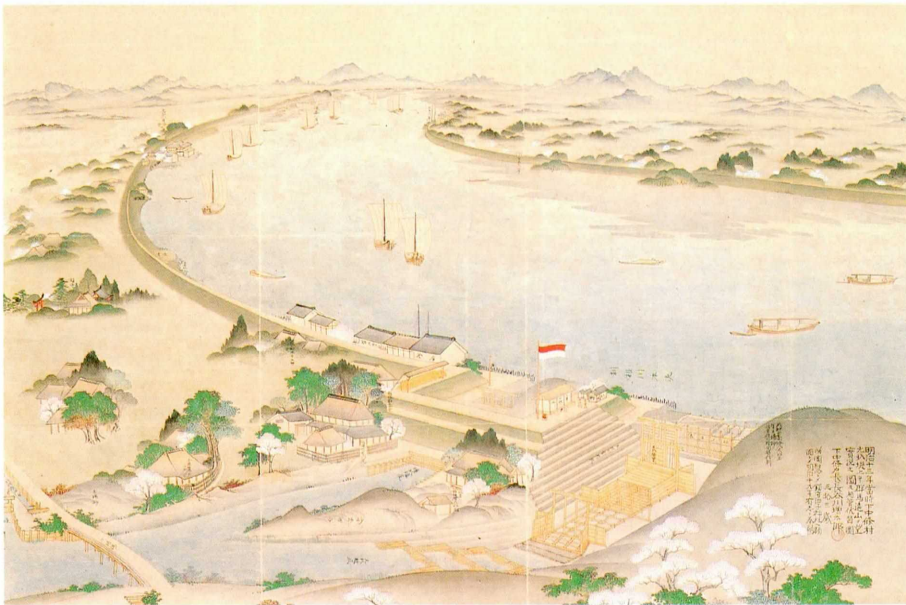


昭和61年収蔵文書展

文書にみる埼玉の開発2

—用水をひらく—



昭和61年6月21日(土)~昭和61年10月11日(土)

埼玉県立文書館

開催にあたって

今回の展示「文書にみる埼玉の開発—用水をひらく」は、近世の利根川・荒川筋を中心とした用水絵図、古文書等を通して、埼玉の耕地開発と用水の結びつきを探ろうとしたものです。

利根川筋では、慶長9年に開さくされた備前渠用水をはじめ葛西用水、さらに関東地方最大級の見沼代用水をとりあげ、用水機能や掘削にともなう技術等各々の用水の特色が伺えるよう展示しました。

荒川筋では、六堰用水とも呼称される奈良堰・玉井堰・大麻生堰・成田堰・御正堰・吉見堰の各用水を、また台地の開発として、玉川上水より引き入れた野火止用水を取りあげました。さらに、各用水に関する行政文書を展示し、用水の維持・管理と時代を越えた用水への取りくみをうきぼりにしました。これを機会に、ひとりでも多くの方が文書史料の重要性をご理解いただければ幸いです。

昭和61年6月

埼玉県立文書館長 秋葉一男

展示解説

備前渠用水

慶長9年(1604)、伊奈備前守忠次によって開さくされた。烏川右岸(後利根川右岸)仁手地先(現本庄市)から取水し、小山川に導入、矢島堰にて分水して東流させ、弥藤吾村(現妻沼町)で福川に落した。

取水口付近は烏川・利根川の合流地点で河道の変化が激しく、取水口も変地を重ねている。天明3年(1783)浅間山噴火による土砂の堆積から度々洪水をひきおこしたため、寛政5年(1793)取水口をメ切、用水源を湧水を集めた仙南堀に求めた。

その後、利根川河床及び水位の低下と共に水不足が深刻となり、文政11年(1828)奈良村の名主吉田市右衛門の援助や用水組合村々の努力により再び取水口が開かれた。

現在は、さらに上流の本庄市山玉堂地先の河川敷内を通し、同市久々宇地内で利根堤防を横断、幹線水路延長約20余kmに及んでいる。

見沼代用水

享保13年(1727)、井沢弥惣兵衛為永によって開さくされた。これは見沼溜井を干拓・新田開発をおこなうと同時に、溜井水下の用水源とするもので、見沼に代る用水という意味で命名された。

利根川中流部の下中条地先(現行田市)で取水し、星川の流路を一部使い、八間・十六間堰で分流させ、さらに元荒川を柴山(現白岡町)の伏越でくぐり、瓦葺(現上尾市)で綾瀬川を掛樋で渡した。ここから見沼の兩岸を通る東縁用水と西縁用水に分かれ、それぞれ天久保用水や鴻沼用水の水源ともなり、幹線路延長は約80余kmに及ぶものである。

現在は利根大堰から取水し、県東部から南部にかけての水田約1万7千haを灌漑する関東平野最大級の農業用水となっている。

葛西用水

万治3年(1660)、伊奈忠克によって、それまで庄内川より古利根川へ導入した中島用水に加え、本川俣(現羽生市)から利根川の水を引き入れた幸手領用水が開さくされた。その後享保4年(1719)、新たに上川俣から取水した。以来この水路は、幸手領用水を含め、葛西地域を灌漑する一大用水となった。

この用水は、溜井を利用した用水系で、利根川から取水した後、琵琶溜井に貯水され、幸手領村々の灌漑用水に使用、さらに松伏溜井にて再び貯水、ここから二郷半領用水と東葛西用水に分水した。また下流の瓦葺根溜井にて貯水し、越谷以南の各地域の用水として利用された。なお現在は本川俣から取水している。

野火止用水

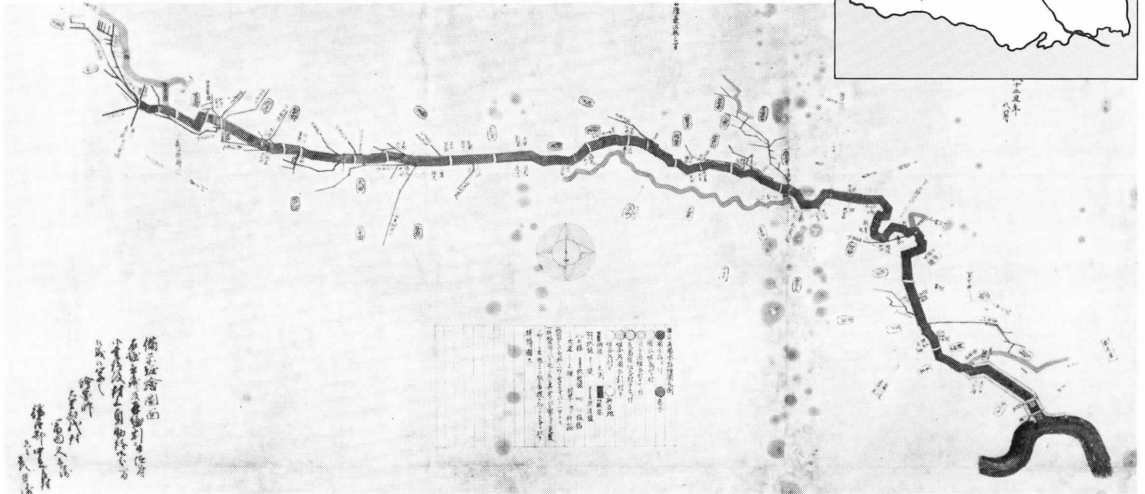
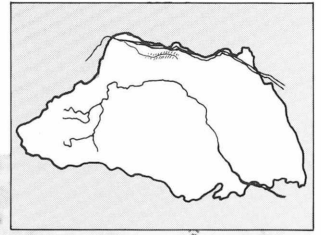
明暦元年(1655)、玉川上水開さくの功により、その3分を新座郡野火止の地に引水した生活用水である。

川越城主松平信綱の家臣、安松金右衛門・小畑助左衛門によって開さくされ、用水沿線の開拓農民は、それぞれ水堀を掘って屋敷地へ引き入れ、飲料水や炊事用水とした。用水流末は当初、新河岸川に落としていたが、寛文2年(1662)、対岸の宗岡村(現志木市)まで掛樋(伊呂波樋)で渡し、水田灌漑にも利用された。

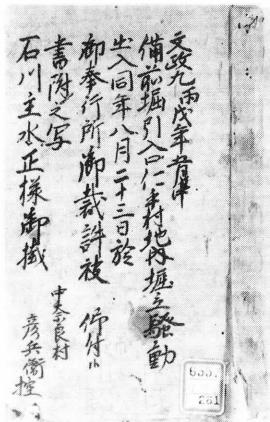
大里用水

六堰用水ともいわれ、慶長年間(1596~1614)伊奈によって現在とほぼ同様の水路がつけられたという。荒川の兩岸に六個の堰を設けて取水したが、左岸には、奈良堰用水・玉井堰用水・大麻生堰用水・成田堰用水、右岸では御正堰用水・吉見堰用水があり、荒川筋では最大の用水である。しかし荒川は洪水による河床の変化が著しく、取水は困難をきわめ、水争いが絶えなかった。現在は六堰(永田堰)で合口取水している。

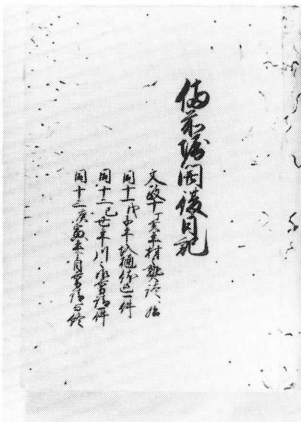
備前渠用水



▲ 1 武州旌羅郡用水字備前堀古絵図面



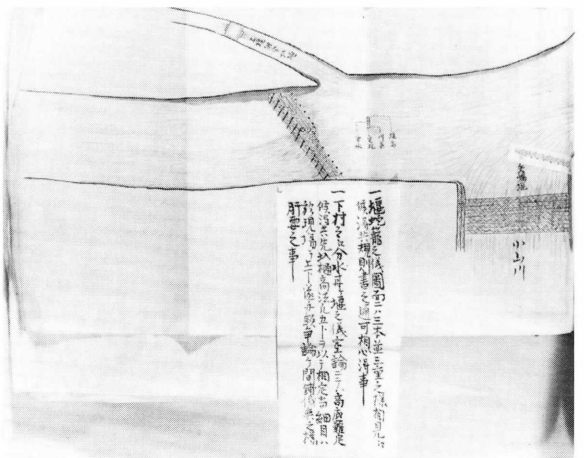
◀ 3 入口堀立騒動一件



▶ 4 備前堀開復日記

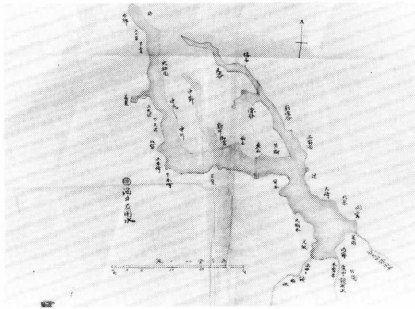


◀ 8 備前堀分間絵図面(部分)

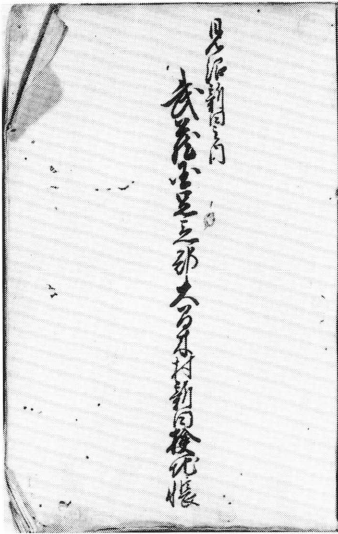


▲ 9 明治5年備前渠書類

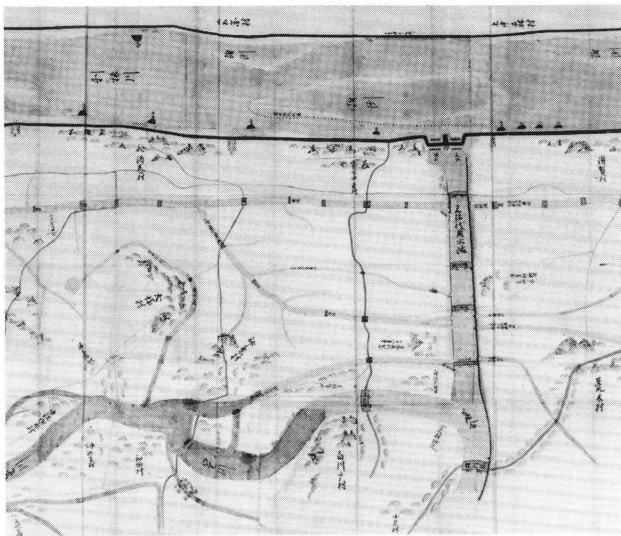
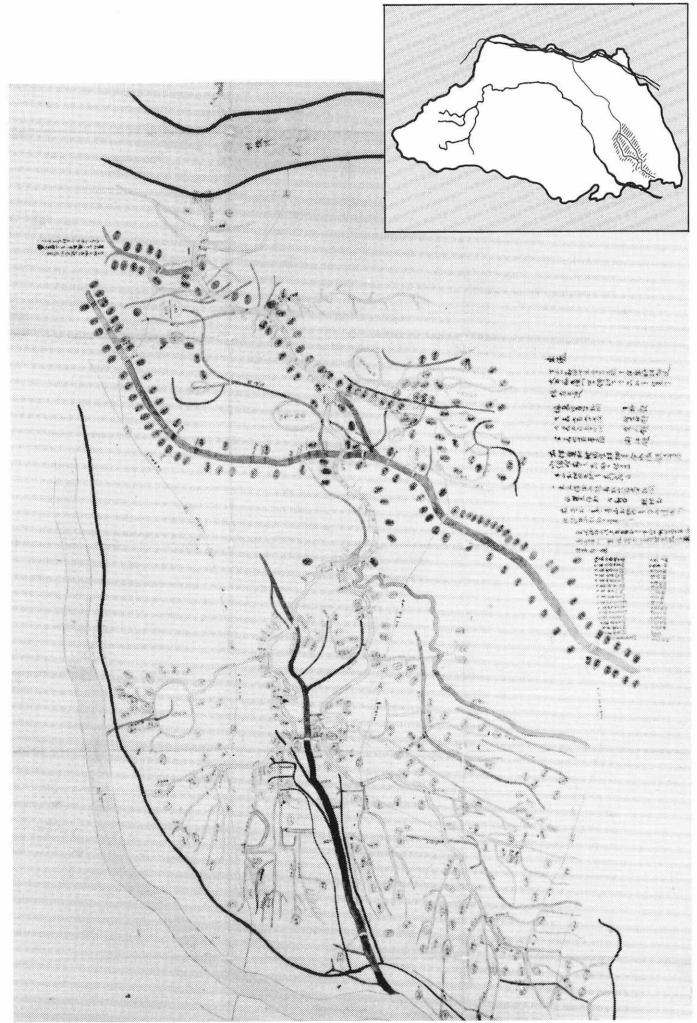
見沼代用水



▲11 見沼溜井図

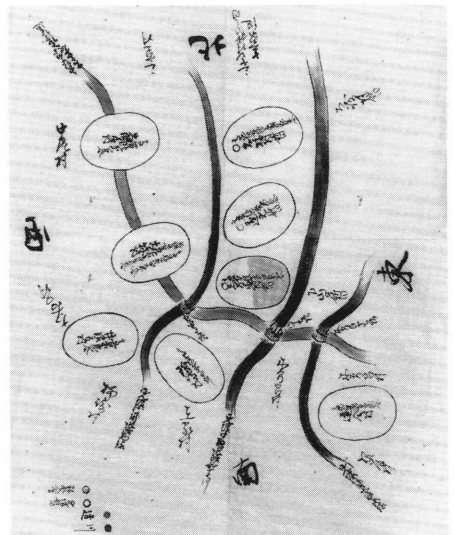


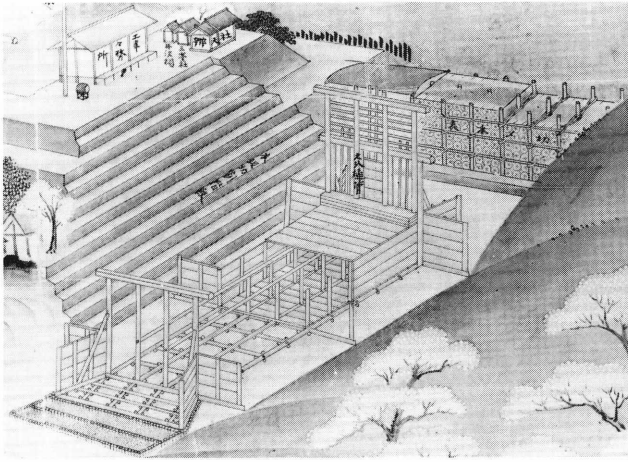
◀ 13 武蔵国大間木村新田検地帳
▶ 10 見沼代用水路絵図



▲19 北河原・星川用水絵図(部分)

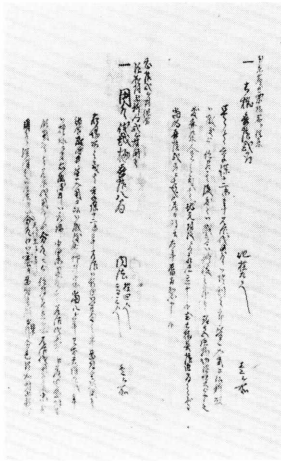
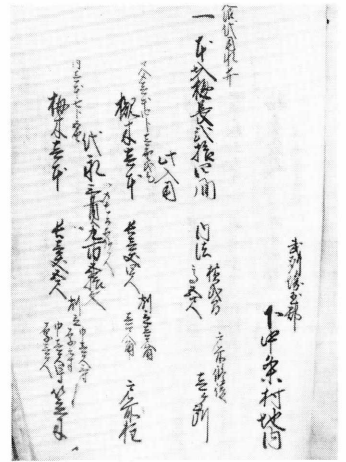
▼16 八丁提付近用悪水図



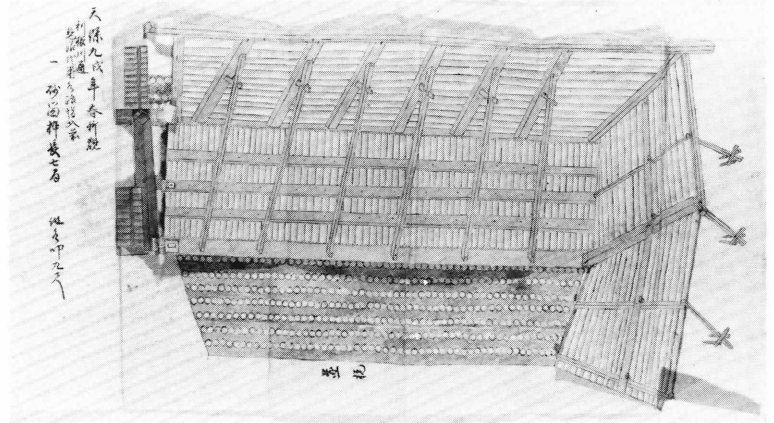


◀ 21 明治年間元塚樋管伏替図(部分)

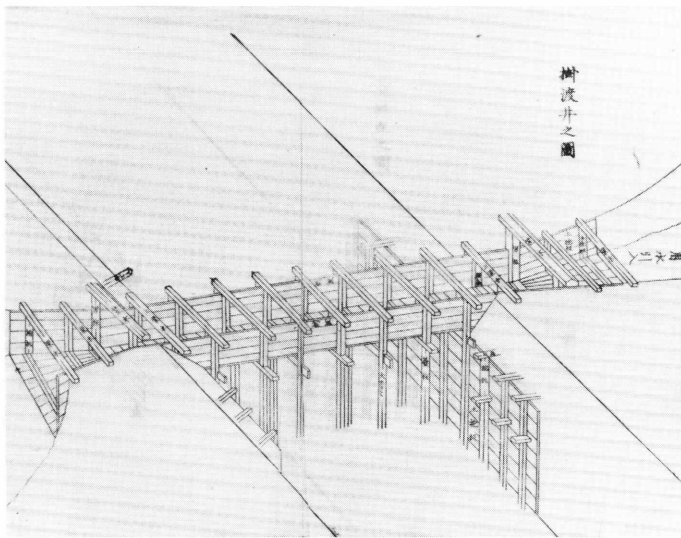
▶ 22 元塚その他普請積帳



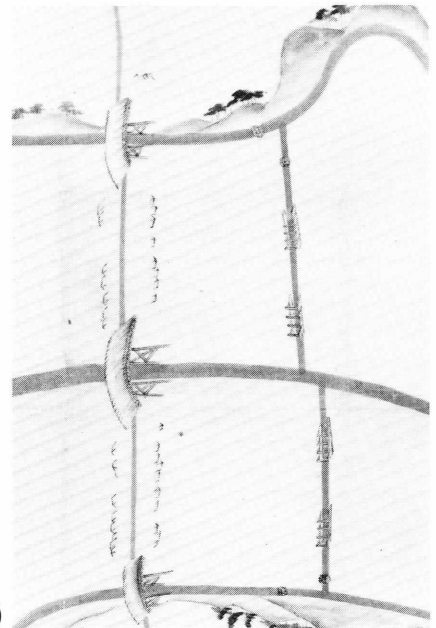
◀ 23 用水路樋類橋々書上帳



▲ 20 見沼代用水路増坎前砂留枿

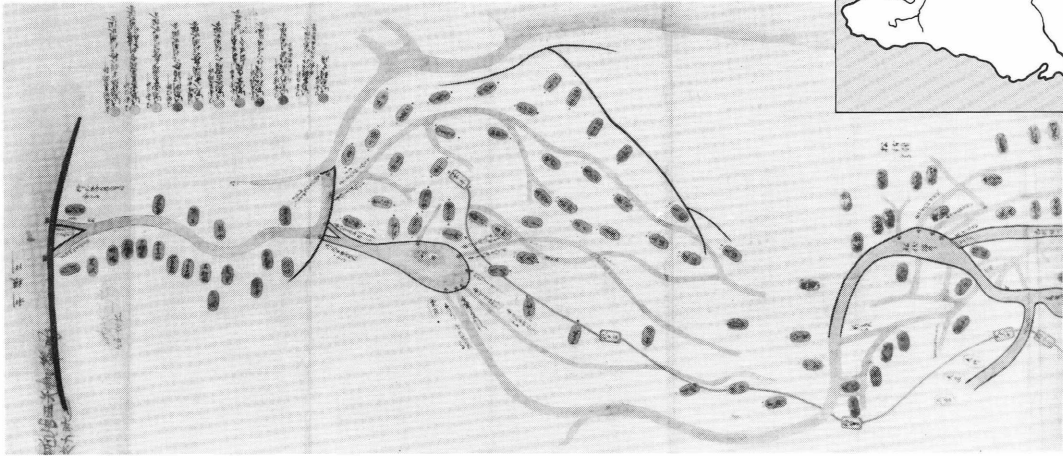
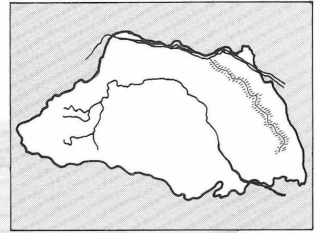


▲ 18 堤防・橋組立之図一掛渡井一



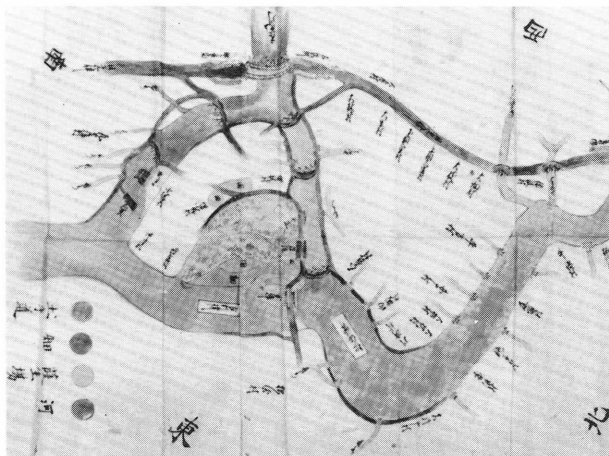
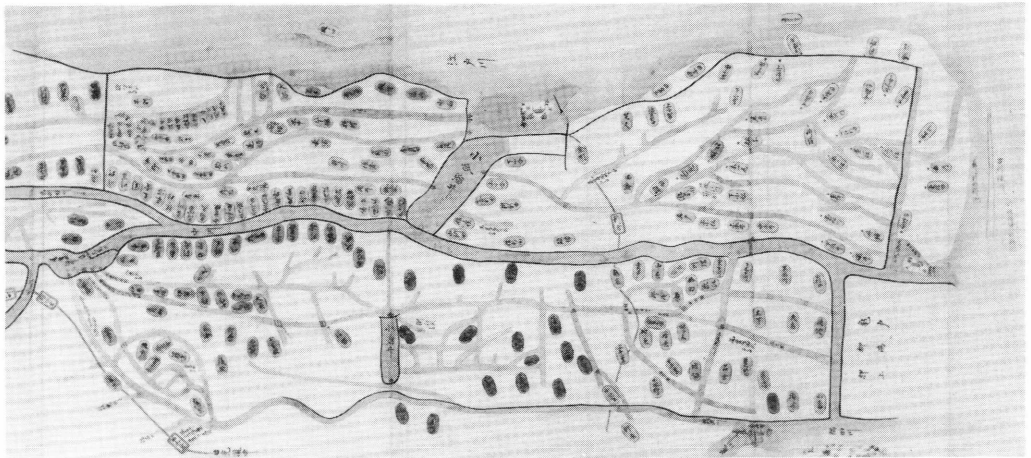
▶ 25 見沼代用水絵図(見沼通船・部分)

葛西用水



▲26

葛西用水絵図

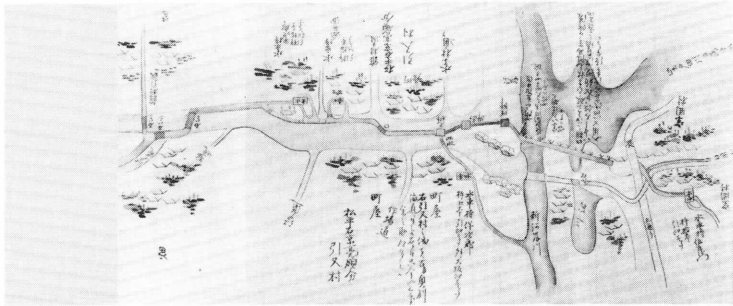
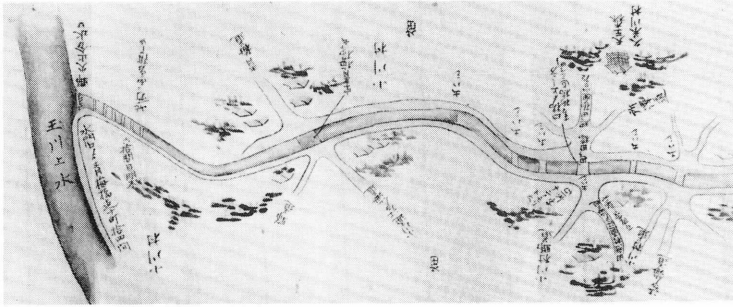


▲27 松伏溜井付近絵図(部分)

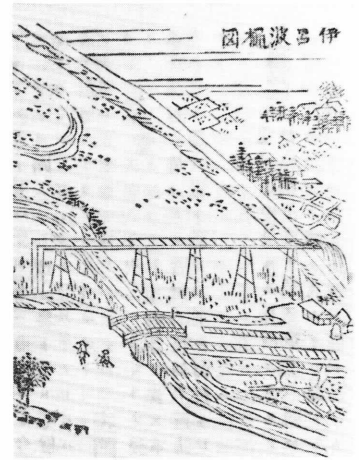
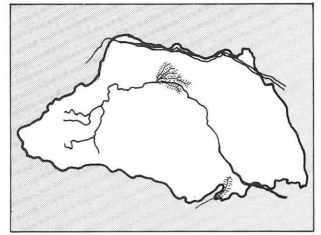
▶33 松伏溜井開梓普請人足賃再伺

武州松伏溜井開梓普請人足賃
 之儀有再伺
 武州葛飾郡松伏堀林西村地内
 溜井用水向梓伏替紙経之儀有
 去未十月中於元浦和縣從前之
 仕來不物實地検査之上取丁數
 等悉、右減之人足差人賃永由又
 以承調積立之上目論見官費

野火止用水

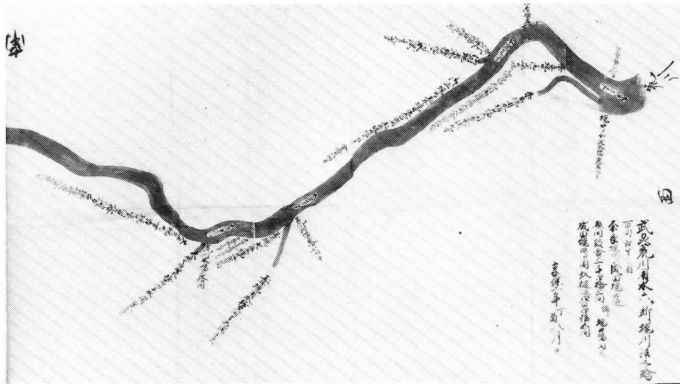


▲36 野火止用水絵図(部分)

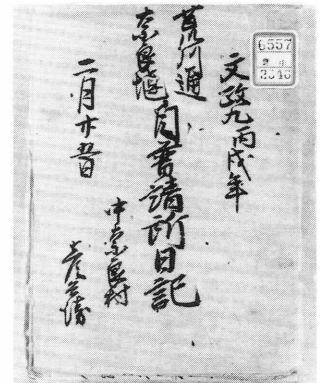


▲38 伊呂波樋園

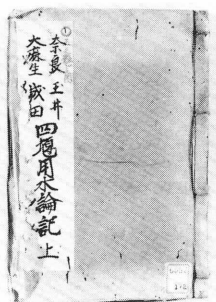
大里用水(六堰)



▲43 六ヶ所堰川法之絵

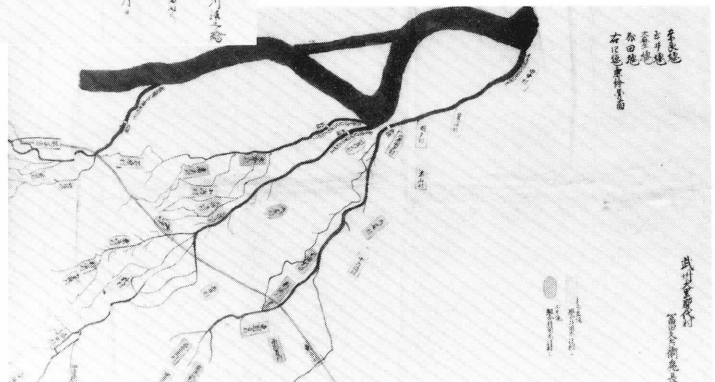


▲42 自普請所日記



▲44 四堰用水論記(上)

▲45 四堰用水路絵図



展 示 文 書 目 録

番号	文 書 名	年号(西暦)	文 書 番 号
— 用水をひらく —			
備 前 渠 用 水			
1	武州旛羅郡用水字備前堀古絵図面		野 中 家 2211
2	備前堀書絵図(全)		見沼土地改良区 102
3	備前堀引入口仁手地内堀立騒動一件	文政9年 (1826)	野 中 家 261
4	備前堀開復日記	文政10年 (1827)	備 前 渠 2
5	備前堀記録(六)	文政11年 (1828)	備 前 渠 8
6	備前堀記録(十三)	文政11年 (1828)	備 前 渠 15
7	備前堀記録(十五)	文政11年 (1828)	備 前 渠 17
8	仁手堰備前堀分間絵図面(部分)	嘉永1年 (1848)	備 前 渠
9	明治5年備前渠書類	明治5年 (1872)	行 政 文 書 明 1704
見 沼 代 用 水			
10	見沼代用水路絵図(完)		見沼土地改良区 133
11	見沼溜井図(見沼代用水路沿革誌)		見沼土地改良区 454
12	武州見沼御新田新井筋濱地改人別帳	享保15年 (1730)	見沼土地改良区 18
13	武蔵国大間木村新田検地帳	寛政6年 (1794)	見沼土地改良区 118
14	利根川表下中条元込入用水引村々帳		見沼土地改良区 33
15	見沼代用水掛手控	慶応3年 (1867)	見沼土地改良区 125
16	八丁付近用悪水図		武 笠 家 1210
17	見沼用水組合高取調書	明治5~7年 (1872~1874)	行 政 文 書 明 3708
18	堤防橋組立之図(完)		見沼土地改良区 137
19	北河原・星川用水絵図(全)		見沼土地改良区 102
20	見沼代用水路増込前砂留枠		見沼土地改良区 80
21	明治年間元込樋管伏替図	明治14年 (1881)	見沼土地改良区 100
22	下中条村元込・増入・戸前并地所埋立砂浚普請積帳	宝暦8年 (1758)	見沼土地改良区 1
23	下中条地内見沼代用水路樋類橋々書上帳	弘化2年 (1845)	見沼土地改良区 91
24	見沼代用水路元込樋之図		見沼土地改良区 31
25	見沼代用水絵図(瓦葺掛渡井・見沼通船堀)		見沼土地改良区 134

番号	文 書 名	年号(西暦)	文 書 番 号
葛 西 用 水			
26	葛西用水絵図(全)		見沼土地改良区 97
27	葛西用水松伏溜井付近絵図		相 沢 家 1790
28	葛西用水拾ヶ領組合村々絵図		白 石 家 5939
29	葛西用水路絵図	[明 治]	白 石 家 5974
30	葛西拾ヶ領組合用水路諸絵図	[明 治]	白 石 家 5967
31	葛西用水中川崎村略図	[明 治]	白 石 家 5956
32	葛西井筋杭木控	明治4年 (1871)	白 石 家 5621
33	武州松伏溜井御普請人足賃之儀ニ付再伺	明治2~9年 (1869~1876)	行 政 文 書 明 1697
野 火 止 用 水			
34	玉川上水新井筋水配規約及元塚樋改造ニ付野火止 村外六ヶ村不服事件示談相整工事執行照会	明治3~26年 (1870~1892)	行 政 文 書 明 3709
35	榎本弥左衛門万之覚(写真)		マイクロフィルム No.1
36	野火止用水絵図		小 室 家
37	野火止用水絵図		新 座 市
38	伊呂波樋(写真)		新編武蔵風土記
39	用水利用風景(写真)		埼玉県立文書館
大里用水(六堰)			
40	奈良堰・玉井・大麻生・三堰御普請出来高帳	文政8年 (1825)	野 中 家 197
41	奈良堰御用留	安政6年 (1859)	野 中 家 159
42	荒川通奈良堰自普請所日記	文政9年 (1826)	野 中 家 2346
43	武州荒川用水六ヶ所堰川法之絵	享保2年 (1717)	野 中 家 8196
44	奈良・玉井・大麻生・成田四堰用水論記上	[天 保]	野 中 家 172
45	荒川通四堰用水路略絵図	天保10年 (1839)	野 中 家 8201
46	玉井堰用水組合規約	明治30年 (1897)	行 政 文 書 明 2108
※ 会期中に一部展示替えを行うことがあります。			

浪人系は、何れ障候なく不苦そのハ名を并
年志五人組志合穿撃つて、慥成死人の形
なき死を申上事

一、負ひ者他より来い候事不及申上中
負ひ者ありて、尙座申上事并申上
勿論倒相煩候もの有レ之候ハ、是又御訴可申候
者、若し隣郷之者共出合留置、早速御注進可申上候、
若切払ひ逃候ハ、先々之郷中よりも出合、何方
までも付したひ、落着所江渡可申候、理不尽打
殺申間敷候事

一、何者、トウ浪人とは何れ立退候もの有レ之候ハ、
若し隣郷之者共出合留置早速御注進申上事
若切払ひ逃候ハ、先々之郷中よりも出合、何方
までも付したひ、落着所江渡可申候、理不尽打
殺申上事

一、田畑志歩、トウ不も怠申上事若し、
除り、トウ毎年正月申上事

一、手負之者他所より参候儀者不レ及申、郷中二而

手負之者有レ之候ハ、当座ニ可申上候、并郷中二而
行倒相果候もの有レ之候ハ、是又御訴可申候、
勿論行倒相煩候もの有レ之候ハ、乞食非人ニふレ限

其者之名、親類国所宿等承届、かん病いたし
置、早速可申上候、尤相果候共其旨早々可申上事

一、何者ニよらず人をあやめ立退候もの有レ之節、所之
者、并隣郷之者共出合留置、早速御注進可申上候、
若切払ひ逃候ハ、先々之郷中よりも出合、何方
までも付したひ、落着所江渡可申候、理不尽打
殺申間敷候事

一、田畑志歩之所も荒申間敷候、若作り面之所
餘り候ハ、毎年正月申上候、無其儀荒申候ハ、

五人組帳について

五人組とは、江戸時代、幕府が百姓・町人に作らせた隣保
組織で、近隣の5戸を一組として、火災・キリシタン宗徒等
の取締りや、納税・犯罪などの連帯責任を負わせたものです。
五人組帳は、五人組制度を実施するために、五人組の守る
べき法令を列記し(五人組帳前書)村役人以下、五人組員が
連名連印して違反しないことを誓約した帳簿です。
今回展示した、山本大膳版『五人組帳前書』は、幕府の代
官で武蔵国を支配した山本大膳が、法令の徹底を図るため天
保七年に出版したものです。

で中上り事

一、名主百姓に盗人入り、雑物委細、
書付、早速注進で中上り能雑物不取盗取候とも
其品申上、御帳付付中、勿論無心元もの有レ之候ハ、
親類縁者好身もの候共、無遠慮可申上候事、
盗人入、又盗まされ雑物見出し其届
有レ之候ハ、名主五人組立云、詮儀仕可申上候、縦
何様之輕もの申来候共、疎略仕間敷候、若油断
いたし其盗人欠落為レ致候歟、断レ之雑物紛失
致候ハ、其者共不レ及申、名主五人組曲事可被レ
仰付候事

一、男女より欠落もの郷中江参候ハ、押置早速
可申上候、猶以先々々構有レ之由、届有レ之者、早速
寄合、吟味いたし申上、得御下知可申候、惣而
あやしきもの者不レ及申、老人者一夜之宿も
貸申間敷候、親類縁者好身もの他所分致
浪人参候ハ、何之障儀なく不苦ものハ、名主
年寄五人組寄合、穿鑿いたし、慥成証人手形
取レ之、差置可申候事

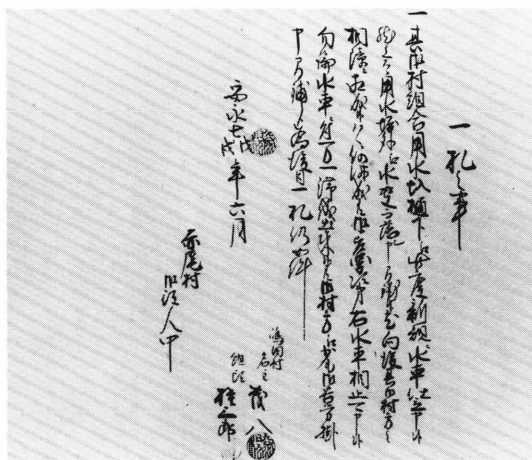
一、男女より欠落もの郷中江参候ハ、押置早速
可申上候、猶以先々々構有レ之由、届有レ之者、早速
寄合、吟味いたし申上、得御下知可申候、惣而
あやしきもの者不レ及申、老人者一夜之宿も
貸申間敷候、親類縁者好身もの他所分致
浪人参候ハ、何之障儀なく不苦ものハ、名主
年寄五人組寄合、穿鑿いたし、慥成証人手形
取レ之、差置可申候事

古文書解読コーナー

五人組帳前書(野中家 三〇三八)

- 一、在々所々名主百姓之所江盗人入候ハ、雑物委細ニ
書付、早速注進可申上候、縦雑物不レ被レ盗取候とも
其品申上、御帳付付可申候、勿論無心元もの有レ之候ハ、
親類縁者好身もの候共、無遠慮可申上候事、
盗人之届、又盗まされ候雑物見出し其届
有レ之候ハ、名主五人組立云、詮儀仕可申上候、縦
何様之輕もの申来候共、疎略仕間敷候、若油断
いたし其盗人欠落為レ致候歟、断レ之雑物紛失
致候ハ、其者共不レ及申、名主五人組曲事可被レ
仰付候事
- 一、男女より欠落もの郷中江参候ハ、押置早速
可申上候、猶以先々々構有レ之由、届有レ之者、早速
寄合、吟味いたし申上、得御下知可申候、惣而
あやしきもの者不レ及申、老人者一夜之宿も
貸申間敷候、親類縁者好身もの他所分致
浪人参候ハ、何之障儀なく不苦ものハ、名主
年寄五人組寄合、穿鑿いたし、慥成証人手形
取レ之、差置可申候事

LET'S TRY! —挑戦してみませんか—



一札之事(林家六二二)より

前回—LET'S TRY!—解説

下知書

此度村方一件、其方親兵左衛門取扱を以、示談行届、然ル上者向後其方江名主役相頼申度、就而者其村方以来治方茂宣趣、小前村役人共願出候間聞届々、其方名主役頼入候処、相違無レ之もの也

安政六年十月、松波弥寿之進

白石兵左衛門悻

清三郎江

新収蔵文書展示目録

番号	文 書 名	年号(西暦)	文 書 番 号
新収蔵文書紹介コーナー			
1	尋常小学修身書(巻一)	大正7年 (1918)	新藤家文書 102
2	明治十二年埼玉県治概要	明治12年 (1879)	荒井氏収集文書
3	明治十四年度羽生領島川落悪水路通常集会決議録	明治14年 (1881)	荒井氏収集文書
4	北葛飾郡郷土読本	昭和9年 (1934)	中原家文書 1588
5	大宮郷土読本	昭和10年 (1935)	中原家文書 1585
6	社会科 2	昭和24年 (1949)	小池家文書
7	社会科 12	昭和26年 (1951)	小池家文書
8	明治23年6月衆議院議員選挙書綴	明治23年 (1890)	旧竹沢村役場文書 2877
9	北側用水加水工事ニ関スル訴願裁決書騰本	明治33年 (1900)	増田家文書
10	村 友	大正2年 (1913)	増田家文書
11	日光御参詣御行烈之次第之写し	天保14年 (1843)	藤城家文書
12	寛文元歳武列大谷領向山村水帳	寛文元年 (1661)	吉田勉家文書
13	和洋農具案内	明治42年 (1909)	吉田勉家文書
14	武陽農機工業有限公司広告		吉田勉家文書
古文書解説コーナー			
1	五人組帳前書	天保5年 (1835)	野中家文書 3038
2	一札之事	安永7年 (1778)	林家文書 6122
3	請合申用水堰証文之事	享保17年 (1732)	林家文書 6123

※会期中に一部展示替えを行うことがあります。表紙=明治年間元塚樋管伏替図(見沼土地改良区 100)

発行 昭和61年6月 編集 埼玉県立文書館 浦和市高砂4-3-18 TEL (0488) 65-0112 印刷 須江印刷(株)